



# ながおか 市政だより

特別号

平成19年7月22日発行

発行：長岡市 編集：広報課  
〒940-8501 新潟県長岡市幸町2の1の1 TEL0258-35-1122 (代表)  
http://www.city.nagaoka.niigata.jp

## Viva! 地球広場!

長岡工業高等専門学校2年  
金子将之さん



市民センターの地球広場。自分にとってなくてはならない場所です。外国籍の人はもちろん、学外の同世代の若者と話ができるところも魅力です。なにより交流が楽しいし、自分の勉強にもなってます。公会堂や屋根付き広場で、何か新しいプログラムができないか、あれこれアイデアを考えると今からワクワクしますね。

## 広場でステップ いいですね



フォークダンスサークル「アンティーズ」のみなさん

まちの中心にある厚生会館は、私たちの大切な集いの場。だから、厚生会館が「平成の公会堂」に生まれ変わるんだと聞いて、本当に安心しました。真新しい公会堂のフロアで踏むフォークダンスのステップ。今からとっても楽しみです。屋根付き広場でダンスフェスティバルなんていいですよ。市民の広場に夢がふくらみます。

# 和と輪広がる市民の広場 シティホールは

## 広がる人の輪、輝く子どもたちの目



▲ロボット相撲で市民センターの子育てフェスティバルに参加

NPO法人  
にいがたエジソン学園  
代表理事  
高橋ゆたかさん

学校では学べない科学やものづくりの楽しさを、子どもたちに体験させたいと活動しています。

市民センターでのイベント参加がきっかけで、他の団体との交流もはじまりました。同じ志を持つユニークな活動グループとのコラボレーションは、とても刺激的です。

私たちにとってシティホールは新たなステージ。子どもたちの笑顔をもっともっと広げたいですね。

## まちなかを「長岡の顔」に

社長岡青年会議所  
まちづくり委員会委員長  
大原邦夫さん



まちなかの変わりようにもっと関心を持って、声を上げていくことが大切です。

まちづくりが実を結び、28万市民が待ち望む姿になったとき、まちなかは、全国に誇れる「長岡の顔」になるのだと思います。

皆さん、まちなかの動きにご注目を。

## 市長に聞く!

# 市民協働のまちづくり

——合言葉は「市民協働」ですね。その「コ」は?

**市長** 市民と行政の垣根を取り払うことです。

まちづくりで大切なのは、市民と行政がお互いの得意な分野や特徴ある活動のギアを噛み合わせて、地域やまちの将来像に向かって協働して取り組むことです。まちづくりのパートナー同士ですから、垣根や敷居を取り払うことがなにより大事です。

——「市民協働型シティホール」って何ですか?

**市長** 市民やNPOなどの団体と行政が垣根を払って交流し、新たな価値を生み出す市民の広場です。

ハード面では、厚生会館地区にできる「平成の公会堂」、屋根付き広場、市庁舎が一体となった空間のことです。そこで重要になるのが、その使われ方、ソフト面の工夫です。市民の集まる場所に市長や市職員、議員がいる。そこでは、気軽にまちづくりの議論が交わされている。時には、仕事帰りに市民と市職員が、まちなかでまちづくり談議に花を咲

させる。これが長岡市の目指す「市民協働型シティホール」です。



——協働のまちづくりはもう始まっているんですか?

**市長** ながおか市民センターがそのモデルです。開設から六年で、二〇〇万人の利用がありました。

「市民センターは役所らしくないところがいいね」と言われます。「用事がなくても、ついぶらっと入っちゃうよ」とも。「市民が育てる」は開設当初からのコンセプトです。市民センターは市民のアイデアを取り入れ、新たな機能を生み出し、今も進化を続けています。市民やNPO団体の活動の輪が行政とリンクして、協働の広場に成長しました。市民センターを通して、市民協働の広場が人をひきつけ、まちなかにぎわいを生むという確かな手応えを得ました。市民センターは「市民協働型シティホール」の原型なんです。



平成23年  
まちなかが  
生まれ  
変わります

## 厚生会館は、「平成の公会堂」に

築後約50年で老朽化の進む厚生会館は、建て替えて「平成の公会堂」に生まれ変わります。安い料金で何にでも使える厚生会館のいいところはそのままに、ホールやアリーナは今よりもさらに広く、使いやすく。市民のアイデアと最新の設計デザインでパワーアップします。

## 公会堂、屋根付き広場、市庁舎の三位一体

「平成の公会堂」、屋根付き広場、市庁舎という三つの施設がひとつに融けあった空間。市民やNPO団体などが活発に交流し、各地域の祭りやイベントの出張ステージにもなり、人々の出会いとにぎわいを生み出す市民の広場をつくります。

インターハイの壮行式や姉妹都市の交流団のセレモニー、市役所に用事で来る人、市役所で働く市職員。まちなかに人が集まり、にぎわいが生まれます。

### ゆったり駐車場を十分に確保、利用は無料に

現在より150台分多い500台分の駐車場を整備し、市役所利用者は無料にします。一台一台の駐車スペースは幅を広く取り、ラインも二重に引いて止めやすくします。

### 幸町の現本庁舎は耐震改修し、有効活用

市役所の本庁舎には、いざというときの災害対策本部として「災害時にも機能は決して停止しない」という高い耐震性が求められます。幸町の現本庁舎をこの水準に耐震改修すると、費用は20億円もかかります。

一方、公民館などの建物であれば、そこまで高い耐震性が求められることはありません。改修費用も5億円と安くあがります。したがって、幸町の現本庁舎は費用を低く抑えた耐震改修を施し、中央公民館などに有効活用します。

### 通常なら105億円かかるところ、今なら35億円

通常、行政機能の整備に国の補助はありません。しかし、今なら国の手厚い支援があります。現本庁舎にはいずれ建て替えの時期が来ます。その時、国の支援はありませんから市民の負担は105億円にも。ところが、今なら、この先50年使える市庁舎を、35億円で整備できるのです。

## 全国が注目!

## 21世紀の市民協働型シティホール

全国千余りのまちづくり計画の中から優れた取り組みを表彰する「まち交大賞」で、長岡市の計画が最高賞の「国土交通大臣賞」を受賞しました。長岡市の先進のまちづくりが、全国から注目を浴びています。

将来を見通したまちづくりは、「米百俵」のまち長岡の伝統。未来指向のまちづくりにご期待ください。

## 今がチャンス。ソフト充実が課題



東京大学  
先端科学技術研究センター教授

大西 隆さん

まちの活性化に向け、みんなが行きやすいまちなかに広場を整備し、そこに市庁舎を移転する。

このアイデアは、ユニークでとてもいい。やるなら今がチャンスです。

市民が集まるだけでなく、そこで何ができるか、何をしたいのか。今後はソフトの充実が課題になります。長岡市のまちづくり計画にはいろいろな人の声が反映されていて、手作りの良さがありますね。

## まちなか連携で波及効果を



中心市街地構造改革会議副座長  
長岡技術科学大学教授

中出文平さん

中心市街地に市役所を呼び戻す取り組みは、全国的にも例がありません。その機能をまちなかに分散すれば、まちづくりへの効果はさらに高まります。市役所を「平成の公会堂」、屋根付き広場など多様な機能と併設する試みも画期的。大事なのはそれぞれが連携し波及効果をもたらすこと。公共交通の見直しも必要です。

まちづくりという建物の話になりがちですが、ポイントはその使い方。市民が知恵を出し合って、前向きに取り組むことが大切です。

※建物のデザインはあくまでイメージです。デザインは今後コンペで決定します。

